

日本地衣学会 ニュースレター

No.143

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次 会員通信	533
国際地衣学会主催のフィンランド南諸島で行われたエクスカージョンに参加して/吉野 花奈美	533

会員通信 *From Members*

国際地衣学会主催のフィンランド南諸島で行われたエクスカージョンに参加して *The report of the 8th International association of lichen symposium pre-excursion/ by YOSHINO Kanami*

>>>>>> 吉野 花奈美：千葉大学園芸学研究所

2016年7月27日から31日まで、北欧のフィンランドにて the 8th International association of lichen symposium (国際地衣学会第8回シンポジウム) pre-excursion に参加してきました。これは、8月1日から開催された、国際地衣学会第8回シンポジウムに先立って行われたものです。参加した目的は、フィンランドの地衣類を見ること、採取すること、大会に先立って海外の地衣類研究者と知り合うことでした。本報告では、今後、日本地衣学会会員の皆さまが国外のエクスカージョン等に参加する時に参考にして頂けるかなと思う事柄をお伝えしたいと思います。

行く前の準備

フィンランドの地衣類を採取するにあたって、フィンランドでの地衣類採取の規制および日本への持ち込みについて調べました。その結果、フィンランドでの

地衣類の採取許可は世話人の方が取って下さり、日本への持ち込みについては農林水産省横浜植物防疫所の方から、「データベース (<http://www.pps.go.jp/rgltsrch/>) で規制なしの表示のあるもの及び基質(石、植物等) から分離され、土壌が付着していない地衣類につきましては植物検疫の規制はない」と回答いただきました。今回、100数点の地衣類を採取しましたが、現地で土壌や苔藓類などを取り除き、無事に大学まで送ることが出来ました。ただし、痂状の地衣類など基物を取り除くのが困難な地衣類の場合は、植物防疫所に申請していく必要があることが分かりました。また、世話人の方とのメールで、フィンランドでの地衣類採取の規制はそれほど厳しくないのかなという印象を受けました。

設備など

宿泊は首都ヘルシンキから西に約 150 km 行った所にあるスパ施設でした。温泉(ぬるい)、プール、サウナ等があり、入り放題でした。温泉と言ってもこちらでは水着で入りました。特筆すべきは、ラボ(図 1)が用意されていたことです。顕微鏡(実体と生物顕微鏡がそれぞれ 10 台ほど)や図鑑、ピンセット、試薬など、観察に必要と思われるものは全て揃っていました。なので、結局は温泉には一度しか入らず、野外から帰ってきたら、夜までずっと採取した地衣類の同定に明け暮れました。ラボにはワインやお菓子も用意されており、とても居心地が良くて驚きました。アメリカの研究者の話では、アメリカで行われるフォーレでもラボは用意されているようなので、海外のフォーレではよくある光景なのかもしれません。

参加メンバーとの交流

今回のエクスカージョンは世話人の Seppo さん(University of Turku) 含め、16 人くらいで行われました。参加者はアメリカ、カナダ、ロシア、チェコ、タイなどの研究者達でした。生態や分類の研究者が多く、私が採取した地衣類の同定も確認してもらえました。おしゃべりな方はいませんでしたが、どこの国の方も話しかけると色々教えてくれましたし、「昼食持った？」など私を気遣ってくれる方もいました。野外では、みんなすぐに散って行き、一人で迷子になりそうにもなりましたが、ゆっくりとフィンランドの自然を感じながら、地衣類を探ることが出来ました。

注意点

カナダ人の女性と相部屋だったのですが、ある日の早朝、彼女にたたき起こされました。Tick(マダニ)に刺された(咬まれた)というのです。事前に世話人の方からマダニには注意するよう言われていたのですが、まさか本当にいるとは思っていませんでした。



図 1. ラボでの様子。右中央には地衣類やキノコ、植物の図鑑が並び、右奥には訪れる場所の地図が掲示されていた。

日本でもマダニは重大な病気を媒介するので問題になることがあります。私は初めてマダニに刺されている状況に遭遇し、取り方も分かりませんでした。結局、世話人の方も起こしてラボで取ってもらいました。私も後学のために取り方を教えてもらいました。ラボにあったピンセットよりも、先の細いピンセットが良いという事で、私のピンセットを使ってもらいましたが、まさかマダニを掴むのにも役立つとは思っていませんでした。その後、さらに彼女は 2 回もマダニに刺され、その度に私に取ってくれと頼んできたので、だいぶマダニを取るのに慣れました。この体験で学んだことは、肌を露出しないのはもちろんのこと、草むらに入るときは長靴を履くこと、帰ったら服やリュックなどをチェックし、すぐにシャワーを浴びることなどです。これは当たり前のようなことですが、彼女は全く守っていなかったようです。結構ラフな格好で道なき道にががんに分け入っていたので、その時服やリュックにマダニが付いたのでしょう。しかし、それらをよくチェックせずベッドの上に置いたために、(早朝に発見したマダニがそこまで膨らんでいなかったことから)寝ている間に刺されたと考えられました。



図2. エクスカーション3日目のキミト島にて.



図3. *Pseudevernia furfuracea*. 本属はフィンランドで一種のみ. 南フィンランドの他, ヨーロッパや北アフリカ, 西アジアでも見られる (“Lichens of Finland” より).



図4. *Lasallia pustulata*. オオイワブスマ属はフィンランドで一種のみ. 南フィンランドでは普通種. 海岸付近の岩場や珪質岩に着生することが多い (“Lichens of Finland” より).



図5. *Polycauliona polycarpa*. フィンランド全域に分布 (「Lichens of Finland」より).

地衣類

ここまで長くなりましたが、私が知り得た範囲でフィンランドの地衣類事情を報告します。エクスカーションで訪れたのはフィンランドの南諸島でしたが、そこはまるでハナゴケパラダイスでした(図2)。日本ではハケ岳にある白駒池周辺の森林内が地面全体蘚苔類で覆われていますが、そんな感じにハナゴケ属が地面に敷き詰められていました。土の上には他にもキゴケ属やエイランタイ属、ツメゴケ属もありました。木を見れば、枝には *Pseudevernia furfuracea*(図3)、幹にはカラタチゴケ属やサルオガセ属はもちろんのこと、フクロゴケが特に多く着生していました。陽の当たる岩場には *Lasallia pustulata*(図4) やチズゴケ属、イワタケ属が目立って確認できました。日本では見つからない *Xanthoria parietina* は住宅街のコ

ンクリート上などいたるところで見られましたし、*Polycauliona polycarpa*(図5)もオレンジ色でもきれいでした。今回、本当に良かったのは、「Lichens of Finland」が The 8th IAL symposium に合わせて出版されたことです。900ページ近くある図鑑なのですが、約6,200円とリーズナブルで、とにかく写真がとても美しく、採取した地衣類の同定に非常に役立ちました(現在は約8,100円+郵送料で購入可能のようです)。日本でもいつか国際学会が開催されるまでには、日本の地衣類を俯瞰するような図鑑ができれば良いと思います。また、今後も海外に行く折には、このような図鑑を手に入れたいと強く思いました。

まとめ

今回初めて国外のエクスカーションに参加して来ました。ラボや図鑑、参加者に恵まれ、フィンランド南諸島の地衣類を思う存分楽しめました。今回のエクスカーションでは、採取許可を取るといふ、恐らく最も大変な作業を世話人の方がやってくださったので、気軽に参加することが出来ました。積極性さえあれば、英語も何とかかなと思いますので、機会がありましたら皆さまもぜひ参加してみてください。

謝辞

本エクスカーションの参加には、笹川科学研究助成による支援を受けました。ここに深く感謝申し上げます。

●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌102号378ページに。

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 102, p. 378 of this publication.

● *Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 143, pp. 533-536: eds. Nakashima H., Bando M., Kawakami H. & Harada H., published by the Japanese Society for Lichenology, 3 April 2017.

日本地衣学会ニュースレター 143号

発行日: 2017年 4月 3日

編集: 中嶋裕之・坂東誠・川上寛子・原田浩

発行者・発行所: 日本地衣学会

〒658-8558神戸市東灘区本山北町4-19-1

神戸薬科大学 薬化学研究室

©2017日本地衣学会 (© 2017 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複製等は固くお断りいたします。